

情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）

（多施設共同研究用）

西暦2018年 4月 12日作成

|                        |   |
|------------------------|---|
| 研究課題名                  | 遠隔(肝外)転移並存大腸癌肝転移例における遠隔部位別にみた手術治療の意義  |
| 研究の対象                  | 横浜市立大学附属病院および横浜市立大学附属市民総合医療センターで肝手術により治療された大腸癌肝転移例<br>研究対象者：1982年2月1日から2016年12月31日  |
| 研究目的<br>・方法            | <p>目的：大腸癌肝転移症例における肝切除の5年生存率は35～58%であり、非切除の場合と比較すると予後は良好である。しかし肝外転移を有する肝転移例の予後は不良であり、肝手術が適応外となることが多い。一方、近年では肺転移や腹膜播種を並存する大腸癌症例でも切除により長期予後が得られるという報告もある。しかし肝外転移を伴う肝転移症例では、いまだ明確な予後因子が同定されておらず、このため肝切除の有効性について一定の見解は得られていない現状である。本研究は、横浜市立大学附属病院および横浜市立大学附属市民総合医療センターでこれまでに治療されてきた大腸癌肝転移例を解析し、肝外転移を並存した大腸癌肝転移の肝切除症例の予後を決める因子を解明し手術意義を明らかにすることを目的とする。</p> <p>方法：1982年2月1日から2016年12月31日に行われた大腸癌肝転移切除647例を、肝転移切除の際、肝外遠隔転移が並存した111例と並存しなかった536例で分類し、臨床データ・短期成績・長期成績を比較解析することで予後を決める因子および肝手術の意義を明らかにする。また、肝外転移が並存しなかった症例の中から肝転移程度の同等と考えられる症例群を抽出し、肺転移、リンパ節転移、腹膜播種症例それぞれで、長期予後の比較検討を行い、それらの転移が存在する症例における肝切除の意義を明らかにしていく。</p> |
| 研究期間                   | 西暦2018年5月28日 ～ 西暦2019年12月31日  |
| 研究に用いる<br>試料・情報の<br>種類 | 診療記録情報、手術、検査データ   |
| 外部への<br>試料・情報の<br>提供   | なし  |

# 情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）

（多施設共同研究用）

|  |  |
|--|--|
| <b>外部からの<br/>試料・情報の<br/>取得と保管</b>  | 横浜市立大学附属市民総合医療センターからのみ情報を取得する。<br>本研究に関する文書および記録は各研究機関の医局内で、対応表及びその他の個人情報等を電子データで保管する場合は、院内 LAN やインターネットに接続されていない独立したコンピューター端末でパスワードをかけ保管し、紙で保管する場合は、ファイルに綴じて施錠できる書棚で厳重に管理し、本研究にかかわる研究者以外がアクセスできないよう保管を行う。また、少なくとも本研究の終了日から5年後又は本研究の結果の最終の公表について報告した日から3年後のいずれかの遅い日までの期間、研究計画書7. 項の個人情報の保護に留意し厳重に管理する。 |
| <b>研究組織</b>  | 横浜市立大学附属市民総合医療センター 消化器病センター外科 藤井義郎<br>横浜市立大学附属病院 消化器肝移植 外科 研究責任者 藪下泰宏  |
| <p>本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。</p> <p>ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先まで電話またはFAXでお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはございません。</p> |  |
| <p><b>問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：</b></p> <p>〒232-0024 横浜市南区浦舟町 4-57<br/>横浜市立大学附属市民総合医療センター 消化器外科（研究責任者）藤井義郎<br/>電話番号：045-261-5656（代表） FAX：045-253-5796</p>  |  |